



北海道別海高等学校

一 地域の概要

別海町は北海道東部、根室の中央部に位置し、中部・西部には北海道らしい大平原が広がっています。また、東部の海岸部には日本最大の砂嘴である野付半島、南部には風蓮湖があり野付風蓮道立自然公園を形成するなど、さまざまな景観を有し、自然条件に富んだ町です。

平均気温は五・六℃と低く、年間を通して寒いです。平均降水量は一、一四八mmと、札幌（一、一四六mm）と変わりませんが、グラフの通り、五月から九月にかけて、降水量が多く、また日照時間が短いという、特徴を持っています。これらの気候条件および広大な土地を活用し、酪農が基幹産業になっています。根釧パイロットファーム計画、新酪農村建設事業により、先進的・効率的な草地型酪農地域へと発展を遂げてきました。近年の大型機械による短時間でのサイレージ調整作業が可能になったことや大規模化が進んでいますが、それらの大規模化が進んでいますが、それらの大規模経営と一〇〇頭前後の経営、一〇〇頭以下で高い乳飼比を実現する経営が混在しています。全体では農家戸数の減少と平均規模の拡大は続いている、経営体当たり飼養頭数は一五九頭（令和二年）と北海道の平均より大規模になっています。町の面積は一、三〇〇km²、農協はJA道東あさひとJAなかしゅんべつがあります。乳牛飼養頭数一一万頭を超え、市町村単位での生乳生産量は日本一を誇ります。

構造の変化に今わせた教育

内容や毎間定時制の意義等

について検討を重ねた結果、

平成一九年度より定時制酪

農科を閉じ、全口制酪農経

営科として再スタートをし

ました。現在は、普通科一

七十九名、酪農経営科二五八名、

農業特別専攻科一〇名の生

徒・学生が在籍しています。

定時制の時には、生徒は

酪農家の出身であることが前提であった

ため、ホームプロジェクト(家の農場を

使用する学習)がその中心でした。その

ため、学校には牛舎がありません。全口

制への移行に伴つ、学校の施設設備の新

設は行わない方針であったため、①地域

との連携による、地域の施設や人材を活

用した実践的な教育、②学校の農場・施

設の活用の実現が課題となりました。

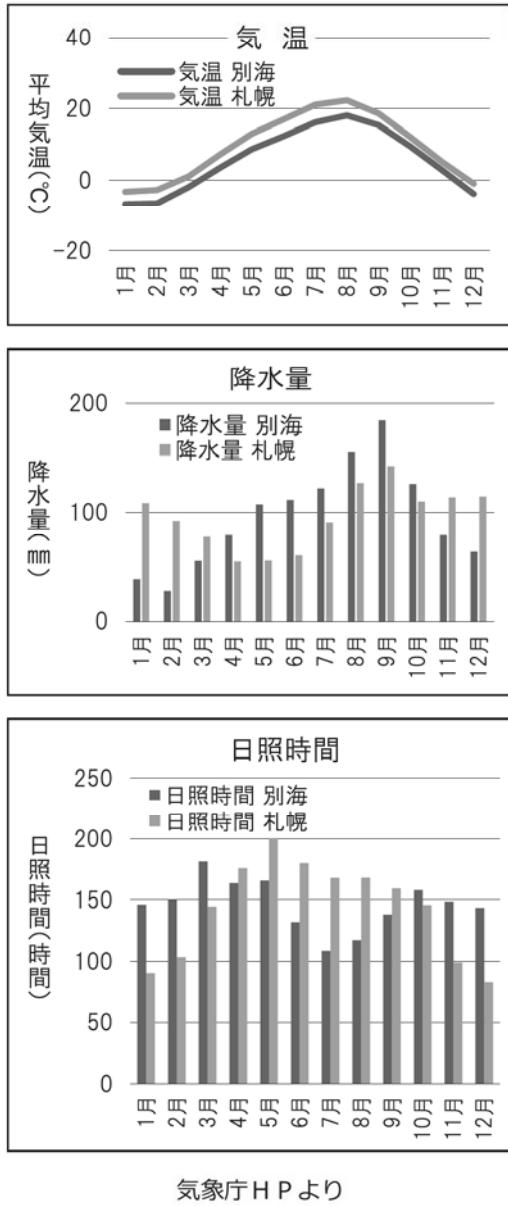
とめて生活科を設置。また、昭和四十七年
に「北海道別海酪農高等学校」に改めと
て、「北海道中標津高等学校西別分校」として
開校しました。以来、昭和一七年「北海
道西別高等学校」として独立、昭和二九年
年に毎間季節制酪農科設置。昭和四一年
に「北海道別海酪農高等学校」に改めと
て、「北海道別海酪農高等学校」に改めと

II 学校の改革

に農業特別専攻科が、地域酪農の従事者が学ぶ場所として設置されました。昭和五一年全口制普通科を設置、「北海道別海高等学校」と改称。全口制普通科と定時制酪農科の一課程一学科になりました。

III 牛舎を持たない 「酪農経営科」

平成一一年度から、時代の進展・産業

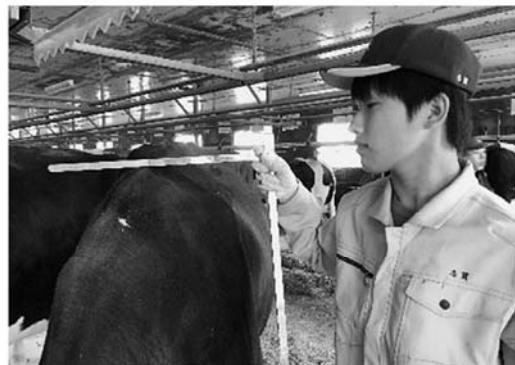


四 地域と連携した教育活動

地域との連携により、地域にある様々な施設や人材を活用して教育活動を実現しています。

■春の酪農研修

一年時に、体測やブラッシング、基本的な飼養管理を行います。別海町の、新規就農を目指す人のための施設、「別海町酪農研修牧場」で実施します。大きくてきれいなフリーストール牛舎と、ミルキングパーラー、研修棟を備えています。牧場の指導員の方から別海町の酪農の歴史も含めた講義を受けることができ、現場に即した学習ができます。



■秋の酪農研修

秋には、一年生が、「なかしゅんべつ未来牧場」で研修します。「JAなかしゅんべつ」が直営の育成牧場を母体に設立した、新規就農希望者の研修施設で、地域

設立した、牧場から哺乳牛や育成牛を預かり育成する施設「JA道東あさひ キャトルセンター」にて、一年次に、給餌や清掃、環境整備について実習します。

■育成実習

搾乳技術を学びます。日中学校で授業を受けた後、夕方の作業を行い、そのまま宿泊し、翌日は朝の搾乳をして登校する、といった充実した期間を過ごします。

■搾乳研修

一年生になると、別海酪農研修牧場に泊まり込んで、ミルキングパーラーでの



ます。

技術はもち

ろんですが、

農家の生活を

体験すること

で、酪農とど

もに生きる考

え方を学ぶこ

とができます。

実習先の選定

は生徒の将来

の希望等も踏

まえて慎重に

行っています。

帰つてくると生徒たちは一皮むけたよう

に成長しています。

■ インターンシップ

一年次には、農家や農業関連企業などに三日間のインターンシップに入ります。それまで学校で習ってきたことを実際に現場で試す場であり、自分の足りなかつ

哺乳から搾乳までの飼養管理を学ぶとともに、カウコンフォートなどについての講義を受けています。

■ 香託実習

二年次には、地域の農家に泊まり込んで、実習をさせてもらいます。JA道東あさひ、JAなかしんべつ、JA計根別が斡旋をしてくれます（年度により異なります）。この近郊には研修生受入れのための施設をもつ農家も多くあり、すべての生徒をお願いすることができます。

■ 視察研修

北海道ひがし農業共済組合根室南部事業センター・ジエネティクス北海道道東事業所などで視察研修を実施しています。

の経営スタイルに合わせたつなぎ牛舎を置いています。

二年次には、地域の農家に泊まり込んで、実習をさせてもらいます。JA道東あさひ、JAなかしんべつ、JA計根別が斡旋をしてくれます（年度により異なります）。この近郊には研修生受入れのための施設をもつ農家も多くあり、すべての生徒をお願いすることができます。

家畜診療の実際、乳牛の育種や血統の管理、受胎管理の実際を視察し現場の緊張感とともに、普段からの獣医さんや授精師さんとの連携、飼養管理の大切さを学びます。

■環境学習（植林）



北海道開発局根室農業事業所の協力で、育苗から植林までの森林学習を行っています。一年次に作った苗を二年次に定植するという、なかなかできない貴重な形態での学習です。

■農業クラブ行事への協力



農業クラブ行事の、意見発表大会・技術競技大会・実績発表大会に、根室農業改良普及センター、別海町農政課、JA道東あさひ、JAなかしゅんべつ、ジェネティクス北海道道東事業所などから、審査員の協力をいたしています。その際、審査だけでなく、可能な範囲で、講義なども行っていたり、現場の方から直接学ぶ機会を作っています。

五 校内での教育

■農業基礎学習（農業と環境）



一年生の必修科目「農業と環境」で、農業学習の基礎をしっかりと身に付けます。

校内の施設を用いて、多様な教育を実施しています。

す。牛舎がないため、野菜・作物園芸が題材となります。生物をその環境を制御して育成することで、人間の役立つ形で持続的に利用する、という、農業の基礎を、実習を通じて身に付けています。

校内に実習用の更衣室と長靴置き場・出入口が置かれて（更衣室を別棟に置く学校が多い）。おり、生徒は快適に実習に臨むことができています。

大規模な生産や機械化を学習させる目的ではないため、小さな面積で、品目を絞り、十分な観察や丁寧な管理作業を実施できるよう、圃場を設定しています。

■乳牛の飼養

牛舎を持たない学校ですが、農家から乳牛を借用し、飼養管理や毛刈り・調教などの実習を行います。倉庫の中に単管で柵を作り、飼槽と扇風機を設置します。二か月近く、生徒のために貴重な育成牛を貸していただいているため、生徒・教

員ともその管理には熱が入ります。

■共進会・バーンミーティングへの参加

上記の借用した育成牛を用い、短期間ですが、飼養管理・調教・毛刈りの実習を行い、共進会に参加しています。また、バーンミーティングにも生徒全員で参加し、学習の機会としています。



人と交流することで、品種改良、飼養管理の重要さを学びます。

■動物バイオ学習

校舎の中に生物工学科実験室があり、体外受精まで実習できる一通りの実験器具がそろっています。授業や専攻班活動の中で、卵子の

選別や精子の観察などを行っています。

■ 加工実習

同じく校内に、乳加工実習室が置かれています。チーズ・ヨーグルトを中心に、乳加工、六次産業化、プランティングについて学習しています。



六 これから の課題

牛舎をもたない酪農経営科として、一五年目になります。生徒は、酪農経営科として、専門的な学びを深めるとともに、全日制四間口校の一員として、部活動をはじめ活発な生徒会活動など学校生活を謳歌しています。

肝心の専門教育については、地域の方の理解の下、様々な教育を実践しています。しかし、近年、個体管理や草地管理における、自動化やAIの活用は目覚ましいものがあり、GAPやHACCPに加え、SDGsなど産業界が取り組むべき課題も時代とともに変化しています。また、教育の在り方も、具体的な活動を通して、主体的に学ぶ態度が求められ、職業科においては、産業界と連携した学びがより一層求められています。本校においても、校内での教育の刷新を図って

いくほか、地域との連携を今まで以上に深めていく必要があります。生徒が外部に出て行く手段の確保が問題となります。が、別海町教育委員会の協力により、バス等での移動が可能になる見込みです。次年度に向け、関係各所と調整を行っているところです。

本校は、この酪農日本一の町で、今後も地域社会、酪農界を力強く支える人材を育成します。

… …

執筆・写真提供は、教諭佐藤信先生に
ご担当いただきました。

【別海高等学校 農場部】